



こもれびのいえ 通信

2026年8月1日発行

NPO法人 こもれびの家

八女郡広川町一條1065-7

TEL 0942-53-5511

八月六日は広島に原爆が落とされた日です。私は、小学校の修学旅行で原爆ドームに行き、写真や遺品などを見て子供ながらに胸が切なくなつたのを覚えています。こもれびの家では戦争を経験された利用者の方にその時のお話をお聞きしました。

松本真由美

○ Sさん昭和九年当時小学生

竹やぶの中にトンネルみたいに大きな防空壕を作り、防空頭巾を被って隣組の人達と隠れていた。家は百姓をしていたので食べ物には不自由しなかったが食べ物に困っている人にはお母さんがあげていた。

○ Fさん昭和十一年当時小学生

学校に行っても空襲警報が鳴ったらすぐに荷物をまとめて帰る準備、しばらく様子をみて解除、または自宅に帰っていた。校庭の隅に穴を掘って竹などで上を被せてそこに隠れていた。子供も神経質になりサイレンが鳴ると寝ていてもサツと起きるようになった。夜は電灯をつけられない。爆撃のあった所をまるで花火をみるように眺めていた。父は警察官だったので出征。配給があったけど少量でとても足りなかった。弟達を連れて親戚の家にお米をもらいに行くのと「又、来た」という顔でみられ気まずい思いをした。米がすくないのでご飯の中に大根や芋をいれて炊き、野菜はないので川近くの草を取りに行っていた。靴はなく、わらじを作って履いていた。

○ Yさん昭和十二年当時小学生

サイレンが鳴るとカボチャ畑に身を伏せた。夜見ると星野辺りがピカピカしている。あの辺に爆弾が落ちた！とみていた。配給は数が少なくクジ。当たらなければもらえなかった。

「思い出すと嫌」「ぞーっとする」「色んな目にあって死ぬのかと思った」などなどみなさん戦争の恐ろしさをしみじみと語られました。

編集後記

- ① 今回のこもれびの家通信は、81年目の終戦記念日に当たり、こもれびの家の利用者みなさんから、その時の思い出とこれからも平和な日本であってほしい気持ちを綴っていただきました。
- ② 今回、ケアマネジャーの皆様にはこもれび通信、実績報告等などの配布が遅くなっていることを心からお詫び致します。言い訳になりますが、今まであまり病氣もなかった私が7月に細菌性肺炎に罹り、10日入院し退院後、一週間、思うように動けなくなり、今日に至ってしまいました。
- ③ 利用者の方から終戦の事を語っていただき、通信に乗せることができました。子供たちの為にも戦争は二度と起こしてはいけないことを私たち大人も肝に銘じておきたいと思っております。

(毛利赫子)

安らかに

宅老所こもれびの家でご利用されている利用者(男性)さんが七月三十日ご逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。

物静かで穏やかにデイサービスのソファの右側(所定位置)にいつもちょよこんとお座りになっている姿を思い出します。

健康で長生きいただくように食事(農薬、添加物のない、より自然な食材)やリハビリ、心の寄り添い、そして感染症防止に心がけていきます。利用者さんがお亡くなりになるたびにスタッフ各自のさまざまな介助や支援でよいのかと振り返り、改善していくことが大事だと感じています。そのためには研修や学習によるスタッフのスキルアップやスタッフ同士の検証、更に科学的に正しいのかを見定める能力向上も重要だと感じています。

こもれびの家で晩年は過ごしてよかったと思える施設を築いていくようにスタッフ一同努力していきます。

理事長 毛利宗一

朝夕涼しくなってきましたが日中はまだ暑い日が続いています。宅老では、室内での体操、階段の昇降、歩行訓練などを行っております。夏風邪の方がいましたので来所時の手洗いうがいや水分補給、換気や消毒等行い体調管理に努めています。

宅老 武田寛史

デイサービスのようすです



頑張り屋さんなメンバーです



命を守る教室です



お願いが叶いますように



畳の上でリラックス



しっかり足を上げてー！

●8月の誕生日

25日 松藤 桂子さん

26日 平 シツ子さん

●デイサービス用電話

070-3129-5599

●インスタ

QRコード



託児と学童のようすです



今年も学童が始まりました！広川ダムと清水山にいきました。



託児のみんなも学童の作った竹のそうめん流しをしました。